

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝川小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

次年度に向けて
(3月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 算数科では各領域で課題があり、各学年で課題となる領域は異なっている。 <指導上の課題>課題のある領域では、重点的に適応問題に取り組む時間を設けているが、知識の定着に結びついていない。	⇒ 各学年で課題のある領域を確認し、児童の実態に応じた指導を行う。ドリル/ワーク「スタディサプリ」等を活用し、反復練習に力を入れる。【週に1度】 ⇒ 児童主体の授業を展開し、スクールダッシュボードのデータを活用して、成果と課題を共有する。【1か月に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 算数科での課題が見えている。自身の考えに自信をもてず、他者に伝えることができていない。 <指導上の課題> 児童一人ひとりの考えを共有したり、伝えたりする機会が多く確保できていないことが課題である。	⇒ 既習を生かしながら、自身で解決方法を決め、思考し問題を解く学習をこれまで通り行っていく【単元に応じて毎時間】 ⇒ ICTを活用した協働的な学びを積極的に取り入れ、他者と対話しながら答えを導き出す活動を取り入れる【単元に応じて毎時間】

<小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数において多くの課題が見られ、特に「図形」と「数と計算」の領域に課題が集中している。図形では、台形を正しく選べない児童が多く、図形の構成要素の理解が不十分であると考えられる。数と計算では、分数を数直線に表すことや計算処理が十分にできていない様子が見られる。また、解答類型に当てはまらない解答が多く、問題の意図を正確に捉えて処理できていない児童が多いことが分かる。 児童質問「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対しては、肯定的な回答の割合が非常に高かった。今後も児童主体の個別最適な学びを進めるために、教職員の研修を継続していく。
思考・判断・表現	算数では、伴って変化する2つの数量の関係から必要な数量を見出す問題に大きな課題が見られた。児童には、問題解決に必要な数量を考え、そこから立式・説明する力を育てていく必要がある。児童質問「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」に対しては、肯定的な回答が多く得られている。今後も児童が根拠をもって立式や説明ができるよう、授業展開を工夫していく。 また、国語では、目的に応じて文章と図表を結びつけ、必要な情報を見つける問題に課題が見られた。この力は国語に限らず他教科でも求められるため、教科横断的に育成できるよう意識して取り組んでいく。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	基礎的な学習内容の定着を図るため、反復練習を継続している。現在はドリルパークやスタディサプリを活用しているが、日々の宿題などの取組についてもさらなる工夫を検討していく。また、授業の振り返りにおいては、スクールダッシュボードのデータ活用について検討を進めている。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童が「なぜそう考えたのか」という根拠を明確にする指導を継続している。また、ICTを活用し、児童同士が考えを共有・伝え合う場面を積極的に設定している。今後は、各教科で育んだ思考・判断・表現したことを横断的に活用し、実生活と結びつけて考える力を育むことを意識していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)